

第2話 : とりあえず治療費は大丈夫

内 容	音楽など
<p>男性「お宅さん、この検査、初めて？」</p> <p>作業員風の男性が、声をかけてきた。</p> <p>佐竹は今日が初めての大腸内視鏡検査だった。</p> <p>佐竹「ええ、まあ」</p> <p>と佐竹は苦笑いしながら答えた。</p> <p>男性「こちとらベテランだけど、何度やっても慣れないね」</p> <p>声をかけてきた男は、笑った。</p> <p>男性「この病院で、手術を受けたんだよ。大腸の」</p> <p>佐竹「大変だったでしょ？ 検査代に手術代、入院費も・・・」</p> <p>佐竹は思わず聞いていた。</p> <p>先日の検査では、CTや何やかやで、1万円以上も支払った。</p> <p>(手術や入院となったら、 一体いくら払わなくちゃならないんだろう・・・。)</p>	

がんの心配はもちろんだが、

夫婦と従業員 1 名の小さな内装業の会社を営む佐竹は、

お金のことが気になって、仕方なかった。

男性「まあね。でも、ほら、高額療養費制度が使えたんで」

佐竹「コウガクリョウヨウヒ？ なんですか、それ？」

男性「お宅さん、高額療養費制度は知っといたほうがいいよ。

大助かりだから」

男性「ほれ、2 階の階段の横に、

がん相談支援センターってのがあつてしょう。

そこで詳しく教えてもらえますよ」

検査が終わり、会計を済ませた佐竹は、

男に教えてもらったがん相談支援センターに行つてみた。

相談員「医療費の件でご相談ですか？」

佐竹「ええ。どうも大腸がんらしくて、

この病院で検査してるところで。

今後、おカネがどのぐらいかかるか知りたいんです。

コウガクリョウヨウ何とかについても

教えてほしいんですが・・・」

相談員「ああ、高額療養費制度ですね。

1ヶ月の医療費が一定の金額を超えると、

超えた金額が助成される制度ですよ」

相談員は、制度の仕組みをかいつまんで説明してくれた。

年齢や所得にもよるが、

自己負担額の上限が決められていて、

それ以上支払ったお金は戻ってくるのだという。

佐竹は肩の荷が、少し軽くなった気がした。

(健診でがんの疑いがあるといわれて以来、

正直、お金の心配でおしつぶされそうだったが、

とりあえず助成制度が使えるのがわかったし、

相談できる場所があるとわかったのも、大きな収穫だった)

気持ちがラクになった途端、	
---------------	--

検査のために空っぽにしたお腹が「ゲー」と、鳴った。	
---------------------------	--